

「事例から考えるリスクマネジメント」
授業展開案（50分）

1. 学習のねらい

- ・家庭生活に影響を及ぼすリスクの存在について知る
- ・リスクに備える方法として、公的保障・私的保障についてそれぞれの役割を学ぶ
- ・代表的な私的保障である、預貯金と民間保険について理解を深める

2. 授業の概要（50分）

概要	学習内容とねらい
導入 (5分)	1. リスクへの備え ★人生には様々なリスクが潜在していることを知る。またリスクに備える方法について学ぶ
展開① (15分)	2. もしもリスクが起きてしまったら… ★リスクが起きてしまった事例について具体的にイメージし、「何に」「いくら」かかるか考えることにより、必要なお金を準備する手段について学ぶ 事例①「足の骨折で入院したら」
展開② (15分)	事例②「もしも亡くなってしまったら」
展開③ (10分)	3. 自分で準備する「私的保障」 ★代表的な私的保障である預貯金と民間保険について、そのしくみと特徴を理解する
まとめ (5分)	4. まとめ ★授業のふりかえりをする

3. 授業形式

- ・パワーポイントと生徒用ワークシートを用いた講義形式

4. 準備物

- ・生徒用ワークシート（WS）
- ・パソコン（パワーポイントが使える環境のもの）
- ・プロジェクター
- ・スクリーン
- ・筆記用具（生徒）

授業時間が **50分以上** の場合や、授業展開案（50分）の内容を**補足** したい場合は・・・

50分授業セット
「事例から考える
リスクマネジメント」
※本教材



生徒用ワークブック「君とみらいとライフプラン」

※教員用手引書・パワーポイントデータもご用意しております


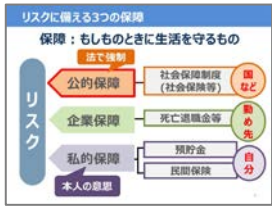




【図記号の説明】

○：スライドタイトル 【WS】 ワークシート掲載

★：ポイント ★★★：重要ポイント (Q)：発問

5. 授業展開（詳細）

時間	内容	備考	スライド
導入 5分	<h3>1. リスクへの備え</h3> <p>○リスクとは何か【WS】穴埋め</p> <p>★リスクとは何かを具体的に想像させ、発生すると経済的な損失を被ることを認識させる</p> <p>○リスクに備える3つの保障【WS】穴埋め</p> <p>★リスクに対する経済的な備えとして、公的保障、企業保障、私的保障（3つの保障）があることを説明する</p> <p>★2章の事例からリスクについて考える際に必要となる知識であることを生徒に伝える</p> <p>○社会保障制度の概要【WS】穴埋め</p> <p>★代表的な公的保障である社会保障制度が4つの柱からなることを説明する</p> <p>★社会保険の保障内容について簡単に説明する</p>	<p>(Q)身の回りにどんなリスクがあるか問いかける</p> <ul style="list-style-type: none"> 資金計画を立てていても「予期せぬこと」が起きて計画が狂ってしまうかもしれないと展開する <p>【用語】</p> <ul style="list-style-type: none"> リスク：予想できない事態により経済的損失や不利益を被る可能性のこと <p>【用語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保障：ある状態が損なわれないように守るもの（もしものときに生活を守るもの） <p>【用語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会保障制度：国民の安心や生活の安定を支えるセーフティネット <p>・社会保障制度のうち、「リスクへの備え」としては社会保険が中心になる</p> <ul style="list-style-type: none"> 詳細な説明は避け、社会保険から様々な保障を受けられることを伝えられればよい 	  
展開 ① 15分	<h3>2. もしもリスクが起きてしまったら…</h3> <h4>事例①「足の骨折で入院したら」</h4> <p>★イラストを使ったアニメーションを通じてリスクが起きてしまった事例について具体的にイメージさせる</p>		

○考えてみよう【WS】穴埋め

★足を骨折した場合に、どんなことにお金がかかるか考えさせる

○①必要となるお金（事例①）【WS】穴埋め

★必要となる医療費等の金額を提示し、リスクが起きてしまったら一定の金額が必要になることを認識させる

○②入ってくるお金（事例①）【WS】穴埋め

★入ってくるお金として「公的医療保険」について説明する。3割負担のほかに、高額療養費制度があることを紹介

○③自分で準備する必要があるお金（事例①）

【WS】穴埋め

★事例①を通じて公的保障と私的保障の補完関係を理解する

(Q) 意見を発表させる

・事例①では「どんなこと」にお金がかかるかを発表させ、事例②でより詳しく時間をかけて考えさせる



考えてみよう

骨折をしたら...
どんなことにお金がかかるか考えてみよう

入院、手術、薬にお金がかかるかな？入院している間の生活費も必要？10,000円くらいかな？

①必要となるお金(事例①)

★足の骨折で22日間入院した事例

①必要となるお金	
かかった医療費	約178万円
その他	約8万円
合計	約186万円

※その他...入院している間の食費やお見舞いに来てくれた人へのお礼等

②入ってくるお金(事例①)

②入ってくるお金	
公的保険(公的医療保険)	約166万円
合計	約166万円

ケガや病気で入院したときには、国などから受けられる公的保障として、「公的医療保険」があります。

②入ってくるお金(事例①)

●公的医療保険(公的保障)

年齢による自己負担の割合

自己負担は原則3割(小学校入学後～70歳になるまで)

自己負担が高額な場合は「高額療養費制度」を活用できる


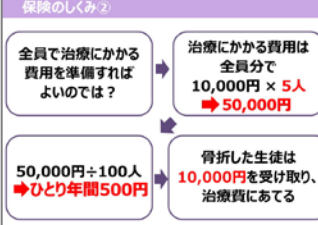
事例の場合、受けられる保障は合計約166万円

③自分で準備する必要があるお金(事例①)

「必要となるお金」から「入ってくるお金」を差し引いた金額が自分で「準備する必要があるお金」。

①必要となるお金	②入ってくるお金
医療費 F186万円	公的保険 F166万円
合計 F186万円	合計 F166万円
=	
③自分で準備する必要があるお金 約20万円	

<p>展開 ② 15分</p>	<p>事例②「もしも亡くなってしまったら」</p> <p>★イラストを使ったアニメーションを通じてリスクが起きてしまった事例について具体的にイメージさせる</p> <p>○考えてみよう【WS】穴埋め</p> <p>★一家の大黒柱（世帯主）がもしも亡くなってしまった場合に、「何に」「いくら」かかるか考えさせて、必要なお金を準備するにはどのような手段が考えられるか自分の意見をまとめさせる</p> <p>○①必要となるお金（事例②）【WS】穴埋め</p> <p>★必要となる生活費や教育費等の金額を提示し、リスクが起きてしまったら一定の金額が必要なことを認識させる</p> <p>○考えてみよう【WS】穴埋め</p> <p>★必要なお金を準備するにはどのような手段が考えられるか自分の意見をまとめさせる</p> <p>○②入ってくるお金（事例②）【WS】穴埋め</p> <p>★入ってくるお金として「公的年金」について説明する</p>	<p>(Q) 意見を発表させる</p> <p>(Q) 意見を発表させる</p>	<p>①必要となるお金(事例②)</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">①必要となるお金</td> </tr> <tr> <td>生活費</td> <td>約9,460万円</td> </tr> <tr> <td>子どもの教育費</td> <td>約2,180万円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>約1,670万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>約1億3,310万円</td> </tr> </table> <p><small>※その他…住居維持費用や子どもの入居結婚費用、葬儀費用など</small></p> <p>②入ってくるお金(事例②)</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">②入ってくるお金</td> </tr> <tr> <td>公的保障(遺族年金)</td> <td>約6,310万円</td> </tr> <tr> <td>企業保障</td> <td>約400万円</td> </tr> <tr> <td>妻の収入</td> <td>約2,340万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>約9,050万円</td> </tr> </table> <p><small>国などから受けられる公的保障として公的年金には、「遺族年金」があります。</small></p>	①必要となるお金		生活費	約9,460万円	子どもの教育費	約2,180万円	その他	約1,670万円	合計	約1億3,310万円	②入ってくるお金		公的保障(遺族年金)	約6,310万円	企業保障	約400万円	妻の収入	約2,340万円	合計	約9,050万円
①必要となるお金																							
生活費	約9,460万円																						
子どもの教育費	約2,180万円																						
その他	約1,670万円																						
合計	約1億3,310万円																						
②入ってくるお金																							
公的保障(遺族年金)	約6,310万円																						
企業保障	約400万円																						
妻の収入	約2,340万円																						
合計	約9,050万円																						

	<p>○③自分で準備する必要があるお金（事例②） 【WS】穴埋め</p> <p>★事例②を通じて公的保障と私的保障の補完関係を理解する</p> <p>○リスクに備える3つの保障</p> <p>★リスクに対して3つの保障があることを再度確認する</p> <p>★私的保障の代表的なものに預貯金と民間保険があることを再度確認する</p> <p>★★★公的保障と企業保障で不足する部分を私的保障で補完することを伝える</p>		 
<p>展開 ③ 10分</p>	<p>3.自分で準備する「私的保障」</p> <p>○預貯金と民間保険①【WS】</p> <p>★預貯金と民間保険のしくみを理解する</p> <p>○預貯金と民間保険②③【WS】穴埋め</p> <p>★預貯金と民間保険の性質の違い、それぞれのメリット、デメリットについて説明する</p> <p>★★★預貯金と民間保険どちらがよいか、ではなくそれぞれの特徴を押さえた使い分けが大事であることを認識させる</p> <p>○保険のしくみ①②</p> <p>★保険のしくみについて単純化した例で説明する</p>	<p>・民間保険とは、保険会社に保険料を支払うことで、リスクが起ったときに保険金を受け取れる契約である</p> <p>・ヨコ軸に時間をとり、タテ軸に万一の時に使える金額を示している</p>	  
<p><ストーリー・スクリプト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・100人の部員がいるサッカーチームがある ・毎年5人の部員が骨折すると仮定する ・対策をしてもケガは減らない ・治療には費用がひとり1万円かかる <p>(次スライド)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そこである部員が思いついた「全員であらかじめ治療にかかる費用を準備しておけばよいのでは」 ・治療に係る費用はチーム全体で1万円×5人=5万円 ・5万円を100人で準備すればよいので、5万円÷100人=ひとり年間500円 ・骨折した生徒は1万円を受け取り、治療費にあてることができる <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="750 1512 1077 1758"> <p>保険のしくみ①</p>  </div> <div data-bbox="1093 1512 1428 1758"> <p>保険のしくみ②</p>  </div> </div>			

	<p>○保険のしくみ③</p> <p>★単純化した例を、一つの図で示し、理解を深める</p> <p>○生命保険と損害保険【WS】穴埋め</p> <p>★民間保険には「生命保険」と「損害保険」があり、それぞれの違いについて説明</p> <p>○状況に応じたリスクマネジメント</p> <p>★★★家族構成や年齢などによって必要な保障が異なるため、状況に応じてリスクへの備えを考える必要があることを説明する</p>	<p>・全員が少しの負担でリスクに備えることができると補足する</p>	 <p>保険のしくみ③ ケガに備えるために…… それぞれ500円の出し合う費用 × 100人 骨折した5人は10,000円ずつ受け取り、治療費を支払える</p> <table border="1" data-bbox="1225 448 1506 649"> <thead> <tr> <th></th> <th>生命保険</th> <th>損害保険</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象</td> <td>人</td> <td>モノ</td> </tr> <tr> <td>受取額</td> <td>あらかじめ決めた金額 (定額給付)</td> <td>事故により発生した損害額 (実損填補)</td> </tr> <tr> <td>備えが有効なリスク</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 死亡 ● 病気・ケガ ● 老後 ● 介護 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ● 交通事故 ● 火事 ● 台風や地震 </td> </tr> </tbody> </table>  <p>状況に応じたリスクマネジメント 家族構成や年齢などによって、身の回りにおけるリスクは異なります。状況に応じてリスクへの備えを考えよう。</p>		生命保険	損害保険	対象	人	モノ	受取額	あらかじめ決めた金額 (定額給付)	事故により発生した損害額 (実損填補)	備えが有効なリスク	<ul style="list-style-type: none"> ● 死亡 ● 病気・ケガ ● 老後 ● 介護 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通事故 ● 火事 ● 台風や地震 								
	生命保険	損害保険																					
対象	人	モノ																					
受取額	あらかじめ決めた金額 (定額給付)	事故により発生した損害額 (実損填補)																					
備えが有効なリスク	<ul style="list-style-type: none"> ● 死亡 ● 病気・ケガ ● 老後 ● 介護 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通事故 ● 火事 ● 台風や地震 																					
<p>まとめ 5分</p>	<p>4.まとめ</p> <p>○まとめ【WS】穴埋め</p> <p>★学んだ内容のポイントをふりかえる</p>		<p>まとめ</p> <p>①リスクに対して3つの保障手段で備えることができる。</p> <p>②公的保障と企業保障で不足する部分を私的保障で補う。</p> <p>③預貯金と民間保険にはそれぞれ特徴があり、使い分ける必要がある。</p> <p>④家族構成や年齢などによって、身の回りにおけるリスクは異なる。状況に応じてリスクへの備えを考えよう。</p>																				
	<p>5.参考資料</p> <p>【参考】①必要となるお金（事例①）</p> <p>★必要となる医療費等の内訳を知る</p> <p>【参考】②入ってくるお金（事例①）</p> <p>★高額療養費制度について知る</p>	<p>・以下【参考】のスライドについては必要に応じて活用する。</p>	<p>【参考】①必要となるお金（事例①）</p> <table border="1" data-bbox="1225 1556 1506 1758"> <thead> <tr> <th colspan="2">●かかった医療費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院料</td> <td>約60万円</td> </tr> <tr> <td>手術料</td> <td>約71万円</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション料</td> <td>約16万円</td> </tr> <tr> <td>その他（※）</td> <td>約31万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">※調剤料・検査料等</td> </tr> <tr> <th colspan="2">●その他</th> </tr> <tr> <td>見舞時の家族の交通費・食費など</td> <td>約4万円</td> </tr> <tr> <td>衣類・洗濯洗剤など</td> <td>約4万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用を合計すると約186万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>【参考】②入ってくるお金（事例①）</p> <p>高額療養費制度とは</p> <p>医療費の3割を負担すればよいといっても、長期入院した場合など、自己負担する金額が高額になることがあります。このような場合、負担が軽くなるように「高額療養費制度」があります。</p> <p>年代や所得によっても異なりますが、70歳未満で、月収27万円以上51.5万円未満の場合、1か月の医療費の自己負担は約10万円になります。</p>	●かかった医療費		入院料	約60万円	手術料	約71万円	リハビリテーション料	約16万円	その他（※）	約31万円	※調剤料・検査料等		●その他		見舞時の家族の交通費・食費など	約4万円	衣類・洗濯洗剤など	約4万円	費用を合計すると約 186万円	
●かかった医療費																							
入院料	約60万円																						
手術料	約71万円																						
リハビリテーション料	約16万円																						
その他（※）	約31万円																						
※調剤料・検査料等																							
●その他																							
見舞時の家族の交通費・食費など	約4万円																						
衣類・洗濯洗剤など	約4万円																						
費用を合計すると約 186万円																							

【参考】①必要となるお金（事例②）

- ★必要となる生活費や教育費等の内訳を知る。
- ★年代別平均貯蓄額・負債額を知る

【参考】②入ってくるお金（事例②）

- ★公的年金の給付の1つである遺族年金について知る

【参考】病気やケガなどに備える生命保険

- ★私的保障として医療保険の仕組みを知る

【参考】死亡に備える生命保険①

- ★私的保障として定期保険・養老保険・終身保険の仕組みを知る

【参考】死亡に備える生命保険②

- ★私的保障として定期保険・養老保険・終身保険それぞれの特徴（保険料や受け取れる金額など）を知る

【参考】①必要となるお金（事例②）

遺族の生活費	長男独立まで	約3,680万円
	長男独立後	約5,780万円
学費	長女	約1,060万円
	長男	約1,120万円
	結婚資金	約200万円
	住宅借替費用	約610万円
	葬儀費用	約460万円
	相続費用	約100万円
	予備費用	約300万円
費用を合計すると約3,310万円		



【参考】②入ってくるお金（事例②）

●Bさんの場合

長女10～18歳まで	約1,547万円
長男17～18歳まで	約299万円
公的保障（遺族年金）	妻53～64歳まで 約1,290万円
	妻65～69歳まで 約1,174万円
企業保障（死亡退職金など）	約400万円
妻の収入（1.30万円×妻60歳まで）	約2,340万円
収入を合計すると約9,050万円	

遺族年金
公的年金の給付の1つ。亡くなった人によって生計を維持されていた遺族に支払われる年金です。受け取る金額は子供の人数や妻の年齢、亡くなった方の収入などによって異なります。

【参考】病気やケガなどに備える生命保険

「医療保険」

①入院給付金
支払金額(円)×(日数/30日) × 日額 ● 円 × 入居した日数

②手術給付金
手術金額(円)×(手術日数/30日) × 日額 ● 円 × 手術(10-20-40日)

①+② =
77,000円 × 22日 = 15.4万円
77,000円 × 100日手術 = 7.7万円
→ **22.4万円**が受け取れる

「がん」で入院した場合など、特定の病気に特化した「医療保険」もあります。

【参考】死亡に備える生命保険①

「定期保険・養老保険・終身保険」

定期保険：一定期間（10年～20年）の間に死亡した場合にのみ、死亡一時金を受け取れる。期間満了後は保険料が0円になる。

養老保険：一定期間（10年～20年）の間に死亡した場合にのみ、死亡一時金を受け取れる。期間満了後は満期金を受け取れる。

終身保険：一生にわたって死亡した場合にのみ、死亡一時金を受け取れる。期間満了後は満期金を受け取れる。

種類によって備えることができる期間や保険料の金額が異なります。

【参考】死亡に備える生命保険②

保険料の違い

● 30歳男性、死亡一時金は1,000万円
● 定期保険、養老保険の保険料は2.20円（60歳以上まで）、終身保険は1.10円
● 保険料は100円単位で30円（60歳以上まで）

年齢	定期	養老	終身
30歳	1.50円	1.00円	1.00円
40歳	2.40円	1.70円	1.70円
50歳	3.70円	2.70円	2.70円
60歳	5.50円	4.00円	4.00円

保険料や受け取れる金額など、保険の種類によって特徴があります。しっかりと理解して契約しましょう。

本教材は、高等学校家庭科の学習指導要領の項目および教科書の単元に対応しています。

6. 本教材における高等学校家庭科学習指導要領との対応

現行版

平成 21 年 3 月 告示 高等学校家庭科学習指導要領「家庭基礎」

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉

ア 青年期の自立と家族・家庭 イ 子どもの発達と保育 ウ 高齢期の生活 エ 共生社会と福祉

(2) 生活の自立及び消費と環境

ア 食事と健康 イ 被服管理と着装 ウ 住居と住環境

エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画

消費生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解させ、適切な意思決定に基づいて行動できるようにするとともに、生涯を見通した生活における経済の管理や計画について考えることができるようにする。

【学習指導要領解説 家庭編】

生涯を見通した経済の管理や計画については、家計の構造、家計における収支バランスや計画性にとどまらず、将来にわたるリスクを想定して、不測の事態に備えた貯蓄や保険などの資金計画についても関心を持たせる。

(イ) 生涯の経済計画とリスク管理

生活の基盤としての家計管理の重要性や家計と経済のかかわりなどについて理解させ、経済計画とリスク管理の必要性について考えさせる。・・・また、生涯を見通した経済の計画を立てる場合には、事故や病気、失業などの不測の事態や退職後の年金生活なども想定し、生涯賃金や働き方なども含め、リスクにどのように対応したらよいかについて考えさせる。

オ ライフスタイルと環境 カ **生涯の生活設計**

(3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

7. 本教材にかかわる新学習指導要領の改訂点

- ・生活設計の取扱いについて、まとめとしてだけでなく、科目の導入と位置付けること、学ぶ内容と関連付けることとなった。
- ・「将来にわたるリスクを想定して、不測の事態に備えた対応などについても触れること」について、解説での記載（現行）から、学習指導要領本体への記載（新学習指導要領）へと変わった。

※解説では、リスクへの対応として「預貯金、民間保険」等の資産形成の視点にも触れるようにすることとなっている。

改訂版

平成 30 年 3 月告示 高等学校家庭科学習指導要領「家庭基礎」

A 人の一生と家族・家庭及び福祉

- (1) **生涯の生活設計** (2) 青年期の自立と家族 (3) 子供の生活と保育 (4) 高齢期の生活と福祉

(5) **共生社会と福祉**

ア 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解すること。

イ 家庭や地域及び社会の一員として自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察すること。

【3 内容の取扱い (1) 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。】

ウ (5) については自助、共助及び公助の重要性について理解できるように指導を工夫すること。

【学習指導要領解説 家庭編】

社会的制度、社会福祉の基本的な概念、共に支え合って生きる社会の考え方について理解できるようにする。・・・自立的な生活と、家族や学校、地域の人の支え合いなどの身近な環境、また国や自治体などの制度やサービスなどの制度としての支援体制という支え合いの構造について理解する。加えて、自助・共助及び公助の概念だけでなく、互助も含めたつながりについて理解できるようにする。

B 衣食住の生活と自立設計

- (1) 食生活と健康 (2) 衣生活と健康 (3) 住生活と住環境

C 持続可能な消費生活・環境

(1) **生活における経済の計画**

ア 家計の構造や生活における経済と社会の関わり、家計管理について理解すること。

イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察すること。

【3 内容の取扱い (2) 内容の範囲や程度について】

ウ Cの(1)のイについては、将来にわたるリスクを想定して、不測の事態に備えた対応などについても触れること。

【学習指導要領解説 家庭編】

家計管理については、・・・事故や病気、失業などへリスクへの対応が必要であることを取り上げ、預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット、デメリット）、資産形成の視点にも触れるようにする。

生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性については、・・・また、将来を見通して、事故や病気、失業、災害などの不可避的なリスクや、年金生活へのリスクに備えた経済的準備としての資金計画を具体的な事例を通して考察できるようにする。

- (2) 消費行動と意思決定 (3) 持続可能なライフスタイルと環境

D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

□監修

大藪 千穂（岐阜大学教育学部 教授）

□編集協力（50音順）

（所属は2020年3月時点）

秋田 一早（大阪府立岸和田高等学校）

池垣 陽子（埼玉県立蓮田松韻高等学校）

石坂 美樹（青山学院高等部）

稲葉 ゆかり（大阪府立芥川高等学校）

内田 文子（東京都立三鷹中等教育学校）

川邊 綾子（海城中学高等学校）

小鐘 純子（園田学園高等学校）

竝川 幸子（京都府立洛北高等学校）

櫛府 暢子（国立東京大学教育学部附属中等教育学校）

新村 恭子（東京都立晴海総合高等学校）

三野 直子（東京都立竹早高等学校）

若月 温美（東葉高等学校）